

特別活動

学級活動（１）で目指す資質・能力を育むための指導の工夫

学級活動において育成することを目指す資質・能力は、①問題の発見・確認、②解決方法の話合い、③解決方法の決定、④決めたことの実践、⑤振り返りという一連の学習過程を通して育まれます。その中で、平成29年度の北管内の課題であった①における議題の選定、③における折り合いの付け方について、指導の工夫例を以下に示します。

学級活動（１）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決（小学校第2学年）

議題例：2年1組なかよし集会を開こう



計画委員

議題ポストに「みんなで協力して楽しめる遊びをしたい」「みんなが仲よくなれる遊びをしたい」という意見があったから、なかよし集会をしたいな。

議題を選定する際には、「学級の児童全員が協働して取り組まなければ解決できないものか」「決めたことを自分たちの力で具体的に実行できるものか」を吟味することが大切です。

また、「友達との関わりが広がる一方、遊ぶ仲間が固定化している」「友達の思いに気付かず、自分勝手な行動をしている」など、学級の実態を踏まえた上で、話合いをすることも大切です。



話し合う際に心配されること

キーワードとなる「協力」「仲よく」の具体例が共有されないと意見が拡散してしまい、折り合いを付けることができなくなる可能性があります。話合いを焦点化するために、例えば次のようなポイントが考えられます。

ポイント1 キーワードを明確化し、提案理由又は話合いの柱に組み込む

「協力」：全員ができることを役割分担する、責任をもつ、自分から進んで準備や係などの手伝いをする

「仲よく」：一部の人だけでなく全員で楽しむ、思いやりの気持ちをもって活動する、いろいろな友達と遊ぶ

方法1 計画委員会でキーワードの具体例を話し合い、提案理由に示す。

方法2 話合いの柱の一つ目として、キーワードの具体例についての話合いを設定する。

ポイント2 折り合いの付け方を理解させる

話合いが停滞したときに、「協力」「仲よく」とはどのようなことなのかを明確化しておくことで、折り合いを付けるためのよりどころとなります。

折り合いの付け方として、「それぞれの意見を合わせる」「いくつかの意見を取り入れて新しい考えをつくる」「それぞれを縮小して全部行う」「優先順位を付けて上位の考えに決める」などを理解させることも大切です。

ポイントを押さえた指導を展開することにより、「ドッジボールは苦手だけど、みんなでやると決めたことだから、司会を特に頑張りたいと思いました」「ぼくは最初、ドッジボールでたくさん当てることばかり考えていたけど、みんなが楽しめるようにルールを考えないといけないと思いました」などの発言を引き出し、よりよい人間関係の形成、よりよい集団づくりへの参画、自己のよさを生かす自己実現などにつながる資質・能力を育むことを目指します。